

映画の舞台になった景勝の地や 歴史公園、街角の風景

佐賀県の豊かな歴史や自然は、創作意欲をかきたててきました。
これまで、佐賀県のさまざまな場所で撮影が行われてきました。

1 玄海町

映画 春よこい(2008)

映画「春よこい」は、昭和の末ごろの佐賀県唐津市や玄海町を舞台に家族の強い絆を描いています。玄海町の浜野浦の棚田や旧仮屋小学校などで撮影が行われました。

東松浦郡玄海町



玄海町産業振興課提供

2 吉野ヶ里遺跡

映画 まぼろしの邪馬台国(2008)

「まぼろしの邪馬台国」は、邪馬台国ブームの発端となったベストセラー小説です。映画化された際には、吉野ヶ里遺跡をはじめ九州各地で撮影が行われています。

神埼郡吉野ヶ里町田手1843



著作権フリー



川副義敦氏提供

3 佐賀駅

映画 ライウマ(2013)

映画「ライウマ」は学生と佐賀市民の共同で製作され、佐賀駅や佐賀市の中心街が主なロケ地になりました。

佐賀駅前中央1-11-10



佐賀県フィルムコミッション提供

4 須賀神社

映画 ソフトボーイ(2010)

ソフトボールに打ち込む高校生を描いた「ソフトボーイ」は、佐賀県の高校で実際にあったエピソードをもとに製作された映画です。須賀神社は、この映画でソフトボールの練習場所や通学路として何度も登場し、長い急な階段では上り下りするシーンが撮影されました。また、祇園川にかかる夕暮れの橋を渡るシーンも印象的です。

小城市小城市松尾3594



太良町観光協会提供

5 多良漁港(海中道路)

映画 ソフトボーイ(2010)

多良漁港の海中道路では、ソフトボールの部員たちが集まり、結束を強くする重要なシーンが撮影されました。海に浮かぶ船は、漁師さんたちが監督の指示に従って動かしたそうです。

藤津郡太良町



海外の映画やドラマの舞台にもなった佐賀県

佐賀県の地域特有の広大な自然の景観や、情緒ある歴史建造物を活かし、積極的に海外の映画やドラマのロケ地として誘致する取り組みも行われています。

6 呼子の朝市

映画 Timeline (2014・タイ)

ドラマ STAY 佐賀・チャン ジャ キットゥントゥー (2014・タイ)

ドラマ「STAY 佐賀 チャン ジャ キットゥントゥー」では、ジュークとミーが朝市でわかめを買いに行くシーンがあります。呼子の朝市は、日本三大朝市の一つに数えられ、元旦を除く毎日朝7時30分～昼の12時まで開催されます。水揚げされたばかりの鮮魚や新鮮な野菜や果物などが並びます。

唐津市呼子町呼子朝市通り



唐津市文化振興課提供

7 慧洲園

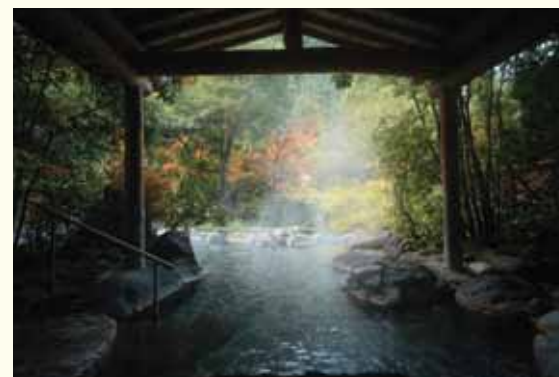
ドラマ きもの秘伝 (2015・タイ)

タイのトップスター、バード・トンチャイが主演するドラマ「きもの秘伝」では、慧洲園でもロケが行われました。慧洲園は、九州随一と言われる約4000坪の純日本庭園で、変化に富んだ植え込みと壮大な名園美で知られています。

武雄市武雄町武雄4075-3



公益財団法人陽光美術館日本庭園慧洲園提供



嬉野市提供

8 嬉野温泉

映画 家門の災難 (2011・韓国)

ドラマ きもの秘伝 (2015・タイ)

韓国で人気のコメディ映画「家門の災難」では、嬉野市内をはじめ、一面に広がる陣野の茶畑や、温泉街など複数個所で撮影を行い、現地のたくさんのエキストラの方が出演しました。

嬉野市嬉野町



佐賀県フィルムコミッション提供



9 祐徳稲荷神社

映画 Timeline (2014・タイ)

ドラマ きもの秘伝 (2015・タイ)

ドラマ STAY 佐賀・チャン ジャ キットゥントゥー (2014・タイ)

タイのヒット映画「Timeline～思い出の手紙～」では、ヒロインの留学先が佐賀県という設定で、祐徳稲荷神社の他、県内各地で撮影が行われました。祐徳稲荷神社は、極彩色の楼門など、日本三大稲荷のひとつとしても知られています。

鹿島市古枝乙1855



文学者を魅了した佐賀県人たち

激動の時代を生きた先人たちの姿が、文学者の筆に生き活きとよみがえります。



佐賀市観光協会提供

10 望郷の道

小説 望郷の道 (2009)

北方謙三著『望郷の道』の舞台になった古湯温泉は、豊かな自然と風情のある湯治街が魅力で、斎藤茂吉をはじめ多くの芸術家を魅了しました。毎年9月には古湯映画祭が行われています。



望郷の道
北方謙三・幻冬舎

佐賀市富士町古湯



11 華の人 12 紅けむり

小説 華の人 (2010) 小説 紅けむり (2014)

人気エッセイスト伊藤緋紗子^{いとうひさこ}が書いた小説『華の人』は、明治・大正時代に生きた名門窠元夫人の人生を描いたもの。一方、山本一力^{やまもといつりき}作『紅けむり』は有田の新炭屋の主人を中心にした時代小説。どちらも焼き物の町・有田にゆかりの読みごたえのある小説です。



華の人
伊藤緋紗子・小学館
小学館提供



紅けむり
山本一力・双葉社



西松浦郡有田町

有田町観光協会提供



13 アームストロング砲



アームストロング砲
司馬遼太郎・講談社文庫ほか

小説 アームストロング砲 (1988)

幕末、佐賀藩で製造された最新式アームストロング砲がテーマとなっています。「幕末、佐賀藩ほどモダンな藩はない。」という書き出しは印象的で、その言葉通り佐賀藩の先進性を実感できる短編歴史小説です。

佐賀城本丸歴史館提供



14 黒鉄の志士たち

小説 黒鉄の志士たち (2013)

本の帯のキャッチコピーは「なんとしても大砲を造れ!」となっています。藩主鍋島直正の強い決意のもと、1冊のオランダ語の書物を翻訳しながら、苦勞して大砲を製造した佐賀藩士たちの物語です。

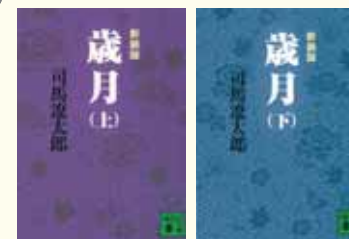


黒鉄の志士たち
植松三十里・文藝春秋

15 歲月

小説 歲月 (1969)

明治維新时期に司法卿を務めた江藤新平を描いた歴史小説です。一度は政府の中枢部にいた江藤ですが、政府内の対立により職を辞してしまい、反乱を企てることになってしまいます。幕末維新时期を駆け抜けた俊才の波乱に富んだ半生を知ることができます。



歳月上・下巻
司馬遼太郎・講談社文庫ほか

16 火城 幕末廻天の鬼才・佐野常民

小説 火城 幕末廻天の鬼才・佐野常民 (1995)

佐野常民は、幕末、「技術立国」を目指した佐賀藩で蒸気機関製造の中心的役割を果たし、後に日本赤十字社を創設したことで知られています。佐野はこの小説で、涙で人の心を動かす熱血漢として描かれています。



火城 幕末廻天の鬼才・佐野常民
高橋克彦・文春文庫ほか